



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リステジデンス センター南 新築工事	階数	地上5F/地下1F
建設地	神奈川県横浜市都筑区在田東2丁目19-1	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年11月11日
敷地面積	3,997 m ²	作成者	株式会社アーキタンツ級建築士事務所 池山 貴子
建築面積	1,578 m ²	確認日	2022年11月11日
延床面積	5,798 m ²	確認者	株式会社アーキタンツ級建築士事務所 池山 貴子

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 92 (kg-CO₂/年・m²)
 ② 建築物の取組み: 26 (79%)
 ③ 上記+②以外の: 26 (79%)
 ④ 上記+: 26 (79%)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.8
 Q2 サービス性能: 2.7
 Q3 室外環境(敷地内): 1.4
 LR1 エネルギー: 4.2
 LR2 資源・マテリアル: 3.1
 LR3 敷地外環境: 3.3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.4

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他
石垣の上に佇む緑豊かな白亜の低層レジデンス 緑に溶け込む木調素材の使用、広いバルコニー空間の設定によりアウトドアリビングとしての活用を提案	0
Q1 室内環境 専有部分について、断熱等性能等級4としている。高い屋光率を確保し、F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用するなど、室内環境の向上に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 外構緑化指数27%とし、防犯カメラを設置するなど、室外環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー 断熱等性能等級4、BEI=0.87としている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率79%とし、光害抑制に配慮している。
Q2 サービス性能 住宅性能評価における劣化対策等級3としている。	
LR2 資源・マテリアル LGS下地やリサイクル材の採用を行っている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



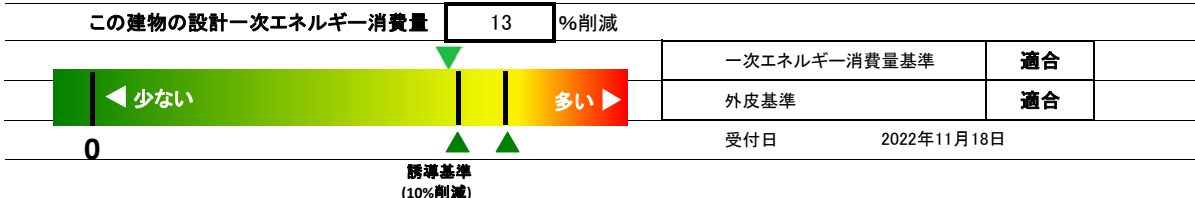
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)リストレジデンス センター南 新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **3**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①断熱等性能等級4を超える性能

③BEI=0.87

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 **4**

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4を超える (相当) ※全住戸の断熱性能のレベルの加重平均による

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

⑥F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑰住宅性能評価における劣化対策等級3

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **1**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入	
— — —	



CASBEE横浜2022年版v.1.0

(仮称)リストレジデンス センター南 新築工事

バージョン

CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質					-		2.70			3.0
Q1 室内環境					0.40					3.0
1 音環境				3.0	0.15	1.0	3.00			3.0
1.1 騒音				3.0	0.50	0.5	-			-
1.2 遮音				3.0	0.50	0.5	-			-
1		開口部遮音性能		3.0	1.00	0.3	-			-
2		界壁遮音性能		-	-	0.3	-			-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	0.2	-			-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	0.2	-			-
1.3 吸音				-	-	-	-			-
2 温熱環境				2.6	0.35	1.0	3.70			3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	1.0	-			-
1		室温	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	3.0	0.63	-	-			-
2		外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.38	1.0	-			-
3		ゾーン別制御性	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	-	-	-	-			-
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-			-
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-			-
3 光・視環境				2.3	0.25	1.0	3.70			3.0
3.1 昼光利用				1.8	0.30	0.5	-			-
1		昼光率	快適・働きやすさ ⑩光環境	1.0	0.60	0.5	-			-
2		方位別開口	快適・働きやすさ ⑩光環境	-	-	0.3	-			-
3		昼光利用設備	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	0.40	0.2	-			-
3.2 グレア対策				2.0	0.30	0.5	-			-
1		昼光制御	快適・働きやすさ ⑩光環境	2.0	1.00	1.0	-			-
3.3 照度				3.0	0.15	-	-			-
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-			-
4 空気質環境				3.6	0.25	1.0	3.60			3.0
4.1 発生源対策				4.0	0.60	0.6	-			-
1		化学汚染物質	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	4.0	1.00	1.0	-			-
4.2 換気				3.0	0.40	0.4	-			-
1		換気量	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	3.0	0.50	0.3	-			-
2		自然換気性能	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	-	-	0.3	-			-
3		取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	3.0	0.50	0.3	-			-
4.3 運用管理				-	-	-	-			-
1		CO ₂ の監視	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	-	-	-	-			-
2		喫煙の制御	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	-	-	-	-			-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	2.70			3.0
1 機能性				2.4	0.40	1.0	2.50			3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	0.6	-			-
1		広さ・収納性	快適・働きやすさ ⑫機能性	-	-	-	-			-
2		高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ ⑫機能性	-	-	1.0	-			-
3		バリアフリー計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	1.00	-	-			-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	0.4	-			-
1		広さ感・景観	快適・働きやすさ ⑫機能性	-	-	0.5	-			-
2		リフレッシュスペース	快適・働きやすさ ⑫機能性	-	-	-	-			-
3		内装計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	1.0	1.00	0.5	-			-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-			-
1		維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
2		維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	2.90			3.0
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-			-
1		耐震性	防災 ⑮耐震・免震	3.0	0.80	-	-			-
2		免震・制振性能	防災 ⑮耐震・免震	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				2.9	0.30	-	-			-
1		躯体材料の耐用年数	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-			-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-			-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.10	-	-			-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
6		主要設備機器の更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-			-
1		空調・換気設備	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2		給排水・衛生設備	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
3		電気設備	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
4		機械・配管支持方法	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
5		通信・情報設備	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	1.0	2.80			3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	0.5	-			-
1		階高のゆとり		-	-	0.6	-			-
2		空間の形状・自由さ		3.0	-	0.4	-			-
3.2 荷重のゆとり				-	-	0.5	-			-
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-			-
1		空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
3		電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
4		通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
5		設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2022年版v.1.0
 (仮称)リストレジデンス センター南 新築工事

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	1.40	-	3.0	3.0
1	生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	10生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	1.00	3.0	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	19まちなみ・景観への配慮	1.0	0.40	-	1.00	3.0	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	2.50	3.0	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	20地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	14敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.50	-	2.7	2.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	4.00	-	2.3	2.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	1建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.20	-	4.00	2.0	2.0
2	自然エネルギー利用		省エネルギー性能	2自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	3.00	3.0	3.0
3	設備システムの高効率化		省エネルギー性能	3設備システムの高効率化	4.6	0.50	-	4.60	2.0	2.0
4	効率的運用				3.0	0.20	-	3.00	3.0	3.0
	集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	-
	4.1	モニタリング		省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	-	-	-	-
	4.2	運用管理体制		省エネルギー性能	4効率的運用	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	-	-
	4.1	モニタリング		省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
	4.2	運用管理体制		省エネルギー性能	4効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	3.10	-	3.0	3.0
1	水資源保護				3.0	0.20	-	3.00	3.0	3.0
1.1	節水				3.0	0.40	-	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	-
	1	雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減				3.2	0.60	-	3.20	3.0	3.0
2.1	材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				4.0	0.20	-	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み				4.0	0.20	-	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	3.00	3.2	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	-	-
	1	消火剤			-	-	-	-	-	-
	2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	-	-
	3	冷媒			3.0	0.50	-	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	3.30	-	3.0	3.0
1	地球温暖化への配慮				3.8	0.33	-	3.80	3.0	3.0
2	地域環境への配慮				2.9	0.33	-	2.90	3.0	3.0
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	-	-
	1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-	-
	2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
	3	交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	-	-
3	周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	3.20	3.0	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	-
	1	騒音			3.0	1.00	-	-	-	-
	2	振動			-	-	-	-	-	-
	3	悪臭			-	-	-	-	-	-
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-	-
	1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	-
	2	砂塵の抑制			1.0	-	-	-	-	-
	3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-
3.3	光害の抑制				4.4	0.20	-	-	-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-	-	-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-
上記以外の重点項目										
<事務用途>										
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	13知的生産性向上への取組	-	-	-	-	-	-	-
<住宅用途>										
健康と安心										
1	化学汚染物質の対策		健康・安心	6健康対策	3.0	-	-	-	-	-
2	適切な換気計画		健康・安心	6健康対策	3.0	-	-	-	-	-
3	結露・カビ対策		健康・安心	6健康対策	3.0	-	-	-	-	-
4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	7防犯対策	1.0	-	-	-	-	-